

# KUMAMOTO IKUNIKAI

熊本いいくに会 会報



## 2月の活動報告

- 第46回 いいくにの日 江津湖エントランス広場
- 第22回 いいくに塾 末永 浩毅氏

3月・4月の活動予定も掲載しております。

※表紙掲載写真：熊本いいくに会社員会 トイレバスターズ  
（右） 隊長 中村貴秀氏（東光石油株）  
（左） 副隊長 中村光敏氏（株ヒライ）

2010年  
2月  
Vol.057

## 江津湖エントランス広場

2月の“いいくにの日”は、トイレバスターズの担当で、江津湖のほりにある「江津湖エントランス広場」のトイレと広場内の清掃を行いました。



### スタートのご挨拶

清掃開始前のご挨拶は、ご入会いただいてからほとんど毎回社員の方々と参加されている㈱RSSの大久保社長より、ご挨拶していただきました。



### 屋根の清掃も

今回のトイレの屋根が高く、バスターズの方を中心に脚立を使ってクモの巣やたまったほこりなどを落としました。



トイレ掃除班は、大久保社長をはじめ、皆さん気合は言っています。もちろんいいくにに会幹事の石原社長は、？？？気合は入りすぎでは？

気合ばっちり！目の生き生き



### バレンタイン

終了後には、バレンタインのチョコレートを事務局長の石原さんよりプレゼント！



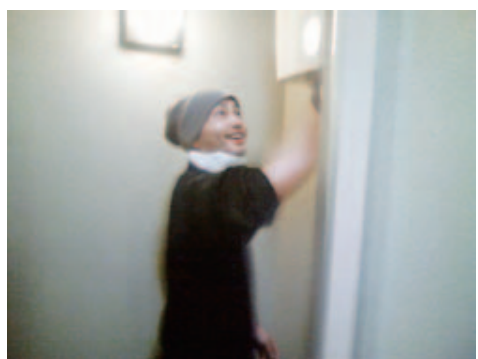
## 第46回いいくにの日

## Photograph



素敵な1ショット！

Best Shot



この瞬間！

# 第22回いいくに塾

日時：2010年2月22日（月）19:00～20:30

講師：(株)やさしい手熊本  
代表取締役社長 末永浩毅氏  
演題：ブラジル四方山話



今回の講師は、いつもお世話になり、12月のお掃除の際にも、参加者の皆さんに、パンやコーヒーなどご馳走して下さった、「やさしい手」の社長であり、またポールスミスやマリメッコなどの店舗を開業され、熊本のファッションリーダーでいらっしゃる有田の会長の末永浩毅氏です。

いいくに塾は、企業塾の時から6年近くたちますが、2度目の講師をお願いするのは末永氏が始めてです。しかもこの日は今年に入って2回目のいいくに塾、そして平成22年2月22日の第22回目のいいくに塾、なんと会場も会議室2という2並びの大変縁起のいい勉強会になりました。

末永氏に2度目の講師をお願いしたのは、理由があります。1度目が大変好評だったということはもちろんですが、その際にお話していただいたブラジルに昨年2度ご出張され、最近のブラジル事情なども含めてお話していただきました

## 会場には国旗・写真・ミュージックも

会場には、ブラジル国旗、経営されている牧場の写真などを展示、また、ブラジル音楽を流しながらの、勉強会になりました。強運の末永氏らしい、絶対米ができないといわれた土地で大豊作になり新聞に載ったお話し、ビデオショップで大成功を収めたお話し。また、ブラジルの珍しい写真、10年前の写真と今の写真も見せていただきました。飼ってらした、ブラジル品種の牛の写真、ご自宅の写真などなど、映像もたっぷりの楽しいお話でした。



# 新聞掲載記事紹介

「みずあかり」とは、熊本県暮らし人祭りの名称です。二〇〇四年から始まった比較的新しい祭りで、今年で六回目を迎えました。

「故郷、熊本の魅力を再発見し、ここに暮らす喜びや切なさも共感できる市民と地域でありたい」という願いが込められています。今年は十月十日と十一日の夜間に行われ、熊本城、桜町、辛島公園へと続く道路に、約二万五千本のろうそくを入れた竹燈籠に明かりを灯すもので、特に熊本城下や堀に浮かぶ灯籠は幻想的で、豊かな情景を醸し出します。

この祭りのために、二カ月以上も前に公募される、祭りの準備を手伝うボランティアを「みずあかりびと」と呼びます。竹で灯籠作るなどの資材の準備から、実際に浮き灯籠を設置する作業まで様々ですが、これを分担して「まつりびと」が行うのです。

私は八月の異動で初めてこの祭りを知りました。ところが熊本市に所在する各駐・分屯地がこの祭りに協賛していることから、「みずあかりびと」に参加する

ことになってしまいました。どんな祭りか見たこともなく、全く勝手もわからないままの参加だったので、正直に言うところ「面倒くさいなあ」と思いました。

しかし、十月四日(日)に参加した「みずあかりびと」は、熊本城長堀の坪井川に、川面に浮かぶ竹浮き灯籠を設置する作業で、川の中に腰まで水に浸かり固定杭を打つことから始まり、悪戦苦闘の末ようやく終了しました。

熊本市民の質実剛健かつ柔和な人柄に接し、市民の地域への思いの深さと結束の強さを感じました。作業終了後には、市民の方の準備したカレーをごちそうになり、開催当初から協力している地元のお客様から熊本市に転動したことで、参加された奥様方との語りも弾みました。

終わってみると、この「みずあかり」というお祭りに結集された地域住民の努力とパワーを肌で感じる事ができ、「みずあかりびと」として参加した喜びを感じるとともに、熊本の人々に一歩近づけた実感を得ることができました。

現代は地方の時代と言われる中、こうした町おこしの行事は、官民が協力して地域の一体感を醸成する絶好の機会です。特に我々自衛官は、有事平時を問わず、地域住民の理解と協力なくしては任務を全うすることはできません。日頃から市民との厚い信頼関係の構築が必要です。そういった意味からも、このような行事には積極的に参加することは重要だと感じました。

(自衛隊熊本病院 一等陸尉)

「みずあかりびと」に

参加して

足立 和範